

## 介護職員初任者研修シラバス (通信)

指定番号 62

商号又は名称: 株式会社イメージ・ラボ

科目番号・科目名	(1) 職務の理解			
指導目標	研修に先立ち、これからの介護が目指すべき、その人の生活を支える「在宅におけるケア」等の実践について、介護職がどのような環境で、どのような形で、どのような仕事を行うのか、具体的なイメージを持って実感し、以降の研修に実践的に取り組めるようになる。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等
① 多様なサービスの理解	1	1	0	<講義内容> 1: 介護保険による居宅サービス (P2~3) 2: 介護保険による施設サービス (P4~5) 3: 介護保険外のサービス (P6~7)
② 介護職の仕事内容や働く現場の理解	5	5	0	<講義内容> 1: 介護サービスを提供する現場の実際 (P8~31) ①訪問介護 ②通所介護 ③認知症対応型共同生活介護 (グループホーム) ④小規模多機能型居宅介護 ⑤特別養護老人ホーム (介護老人福祉施設) ⑥介護老人保健施設 ⑦軽費老人ホーム (ケアハウス) ⑧障害者支援施設 2: 介護サービスの提供に至るまでの流れ (P32~35) 3: 介護過程とチームアプローチ (P36~39) ①チームアプローチにおける介護職の役割 ②地域連携とは <演習実施方法> ・視聴覚教材の活用
(合計時間数)	6	6	0	

使用する機器・備品等	<input type="checkbox"/> 中央法規出版「介護職員初任者研修テキスト」第 1 巻 第 4 版 <input type="checkbox"/> DVD 教材 <input type="checkbox"/> プロジェクター 一式
------------	---

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

## 介護職員初任者研修シラバス

指定番号 62

商号又は名称： 株式会社イメージ・ラボ

科目番号・科目名	(2) 介護における尊厳の保持・自立支援			
指導目標	介護職が、利用者の尊厳ある暮らしを支える専門職であることを自覚し、自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点を理解する。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等
① 人権と尊厳を支える介護	5	1	4	<講義内容> 1：人権と尊厳の保持 (P44~51) ①介護における権利擁護と人権尊重 ②介護における尊厳の保持の実践 ③介護職に求められる人間観と生活観 ④エンパワメントの視点 ⑤利用者のプライバシーの保護 2：ICF (P52~55) ①ICF の考え方 ②ICF の視点と介護 3：QOL (P56~57) ①利用者の QOL ②QOL を広げる視点 4：ノーマライゼーション (P58~59) ①ノーマライゼーションの2つの大きな流れ ②近年のノーマライゼーションの展開 5：虐待防止・身体拘束禁止 (P60~67) ①高齢者虐待の実態 ②高齢者虐待防止法 ③身体拘束の禁止 ④障害者虐待防止法
② 自立に向けた介護	2	1	1	<講義内容> 1：自立支援 (P68~75) ①介護における自立 ②自立への意欲と動機づけ ③残存能力の活用 ④重度化の防止 ⑤その人らしさの理解 2：介護予防 (P76~79) ①介護予防と介護保険 ②生活における介護予防の視点
③ 人権啓発に係る基礎知識	2	2	0	<講義内容> ・人権について ・人権への取り組み ・身近な人権のこと
(合計時間数)	9	4	5	

使用する機器・備品等	○中央法規出版「介護職員初任者研修テキスト」第1巻 第4版
------------	-------------------------------

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

## 介護職員初任者研修シラバス

指定番号 62

商号又は名称：株式会社イメージ・ラボ

科目番号・科目名	(3) 介護の基本			
指導目標	<p>介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づき、職務におけるリスクとその対応策のうち重要なものを理解する。</p> <p>介護を必要としている人の個別性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援を捉える事ができる。</p>			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等
① 介護職の役割、専門性と多職種との連携	2	1	1	<p>&lt;講義内容&gt;</p> <p>1：介護環境の特徴 (P84~87)</p> <p>①訪問介護と施設介護サービスの違い</p> <p>②地域包括ケアの方向性</p> <p>2：介護の専門性 (P88~95)</p> <p>①利用者主体の支援姿勢</p> <p>②利用者の生活意欲と潜在能力の活用</p> <p>③自立した生活を支えるための援助</p> <p>④重度化防止・遅延化の視点</p> <p>⑤チームケアの重要性</p> <p>⑥根拠のある介護</p> <p>3：介護にかかわる職種 (P96~101)</p> <p>①多職種連携の理解</p> <p>②異なる専門性をもつ職種の理解</p>
② 介護職の職業倫理	1	0.5	0.5	<p>&lt;講義内容&gt;</p> <p>1：専門職の倫理の意義 (P102)</p> <p>2：介護福祉士の倫理 (P103~105)</p> <p>①介護職に求められる法的規定</p> <p>②介護職に求められる行動規範</p>
③ 介護における安全の確保とリスクマネジメント	2	1	1	<p>&lt;講義内容&gt;</p> <p>1：介護における安全の確保 (P106)</p> <p>2：事故予防、安全対策 (P107~113)</p> <p>①リスクマネジメントの必要性</p> <p>②事故防止、安全対策の実際</p> <p>③介護事故発生時の対応</p> <p>④介護事故の報告</p> <p>3：感染対策 (P114~117)</p> <p>①生活の場での感染対策</p> <p>②感染対策の3原則</p> <p>上記の事項について、講師が講義を行うとともに、グループワークを通じて、受講者の理解を深める。</p> <p>&lt;演習実施方法&gt;</p> <p>「リスクマネジメント」について、グループに分かれてケーススタディを行うとともに、ディスカッションを行う。</p> <p>※危険予知トレーニング等活用</p>

④ 介護職の安全	1	0.5	0.5	<講義内容> 1：介護職の心身の健康管理（P118~123） ①健康管理の意義と目的 ②健康に働くための健康管理 ③こころの健康管理 ④からだの健康管理 2：感染予防（P124~129） ①感染管理 ②衛生管理 <演習実施方法> 上記の事項について、講師指導の下、受講者が実際に手洗いの基本を行い理解を深める。
(合計時間数)	6	3	3	

使用する機器・備品等	○中央法規出版「介護職員初任者研修テキスト」第1巻 第4版
------------	-------------------------------

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

## 介護職員初任者研修シラバス

指定番号 62

商号又は名称： 株式会社イメージ・ラボ

科目番号・科目名	(4) 介護・福祉サービスの理解と医療との連携			
指導目標	介護保険制度や障害福祉制度を担う一員として最低限知っておくべき制度の目的, サービス利用の流れ, 各専門職の役割・責務について, その概要のポイントを習得する。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等
① 介護保険制度	3	1	2	<p>&lt;講義内容&gt;</p> <p>1：介護保険制度創設の背景および目的、動向 (P136~142)</p> <p>①人口の少子高齢化と家族による高齢者介護の限界</p> <p>②1990年代までの高齢者介護の制度と社会福祉基礎構造改革</p> <p>③介護保険制度の基本理念</p> <p>2：介護保険制度のしくみの基礎的理解 (P143~158)</p> <p>①介護保険制度の概要 ②保険者・被保険者</p> <p>③保険給付の対象者 ④保険給付までの流れ</p> <p>⑤保険給付の種類と内容 ⑥地域支援事業</p> <p>3：制度を支える財源、組織、団体の機能と役割 (P159~165)</p> <p>①国・都道府県・市町村の役割</p> <p>②その他の組織の役割</p> <p>③介護保険の財政</p>
② 医療との連携とリハビリテーション	3	0.5	2.5	<p>&lt;講義内容&gt;</p> <p>1：医療行為と介護 (P166~169)</p> <p>①医療行為とは</p> <p>②在宅支援における介護職と医行為の実情と経過</p> <p>③施設における介護職と医行為の実情と経過</p> <p>④チーム医療</p> <p>2：訪問看護 (P170~172)</p> <p>①どんなサービスなのか？</p> <p>②介護職と看護職の専門性と連携のポイント</p> <p>3：施設における看護と介護の役割・連携 (P173~175)</p> <p>①施設での看護と介護の連携の必要性</p> <p>②看護職と介護職の専門性と連携のポイント</p> <p>4：リハビリテーション (P176~181)</p> <p>①リハビリテーションとは</p> <p>②リハビリテーション医療の過程</p> <p>③リハビリテーションと介護の連携</p>
③ 障害者福祉制度 およびその他の制度	3	0.5	2.5	<p>&lt;講義内容&gt;</p> <p>1：障害者福祉制度の概念 (P182~184)</p> <p>①障害と障害者の概念</p> <p>②障害福祉理念としての「自立」</p> <p>2：障害者福祉制度のしくみの基礎的理解 (P185~197)</p> <p>①障害者自立支援法から障害者総合支援法へ</p> <p>②サービスの種類と内容</p> <p>③サービス利用の流れ</p> <p>④自立支援給付と利用者負担</p> <p>3：個人の人権を守る制度の概要 (P198~208)</p> <p>①日常生活自立支援事業</p> <p>②成年後見制度</p>

				③苦情解決の制度 ④個人情報保護に関する制度 ⑤消費者保護法
(合計時間数)	9	2	7	

使用する機器・備品等	○中央法規出版「介護職員初任者研修テキスト」第1巻 第4版
------------	-------------------------------

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

## 介護職員初任者研修シラバス

指定番号 62

商号又は名称：株式会社イメージ・ラボ

科目番号・科目名	(5) 介護におけるコミュニケーション技術			
指導目標	高齢者や障害者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることと、その違いを認識してコミュニケーションを取ることが専門職に求められていることを認識し、初任者として最低限の取るべき（取るべきでない）行動例を理解する。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等
① 介護におけるコミュニケーション	4	2	2	<p>&lt;講義内容&gt;</p> <p>1：コミュニケーションの意義、目的、役割 (P218~219)</p> <p>①対人援助関係とコミュニケーション ②人間的・効果的なコミュニケーションの基本</p> <p>2：コミュニケーションの技法 (P220~223)</p> <p>①メッセージの送り手と受け手 ②言語的チャンネルと非言語的チャンネル</p> <p>3：利用者・家族とのコミュニケーションの実際 (P224~235)</p> <p>①利用者の思いを把握する ②意欲の低下の要因を考える ③利用者の感情に共感する ④家族の心理を理解する ⑤信頼関係を形成する ⑥自分の価値観で家族の意向を判断し、非難しない</p> <p>4：利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション技術の実際 (P236~247)</p> <p>①視覚の障害に応じたコミュニケーション技術 ②聴覚の障害に応じたコミュニケーション技術 ③失語症に応じたコミュニケーション技術 ④認知症に応じたコミュニケーション技術</p> <p>&lt;演習実施方法&gt;</p> <p>演習やロールプレイング等を行い、コミュニケーションの重要性を認識してもらう。</p>
② 介護におけるチームのコミュニケーション	2	1	1	<p>&lt;講義内容&gt;</p> <p>1：記録における情報の共有化 (P248~255)</p> <p>①記録の意義と目的 ②記録の種類 ③記録の書き方と留意点 ④記録の保護と管理 ⑤記録の実際</p> <p>2：報告・連絡・相談 (P256~259)</p> <p>①報告・連絡・相談の意義と目的 ②報告・連絡・相談の具体的方法と留意点</p> <p>3：コミュニケーションをうながす環境 (P260~263)</p> <p>①会議の意義と目的 ②会議の種類と運用</p> <p>&lt;演習実施方法&gt;</p> <p>演習やロールプレイング等を行い、コミュニケーションの重要性を認識してもらう。</p>
(合計時間数)	6	3	3	

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

## 介護職員初任者研修シラバス

指定番号 62

商号又は名称：株式会社イメージ・ラボ

科目番号・科目名	(6) 老化の理解			
指導目標	加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について、生理的な側面から理解することの重要性に気づき、自らが継続的に学習すべき事項を理解する。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等
① 老年期の発達と老化にともなう心身の変化の特徴	3	1.5	1.5	<講義内容> 1：老年期の定義（P268~270） ①なぜ老年期を定義する必要があるのか 2：老年期の発達と老化にともなう心身の変化の特徴（P271~274） ①老化による心理や行動を理解するための視点 ②社会的環境の変化と心理 3：老化にともなう心身の機能の変化と日常生活への影響（P275~295） ①生理機能の変化 ②恒常性を維持する機能 ③感覚機能の変化 ④咀嚼機能・消化機能の変化 ⑤循環器の機能の変化 ⑥呼吸器の機能の変化 ⑦筋、骨、関節の機能の変化 ⑧泌尿器の機能の変化 ⑨体温維持機能の変化 ⑩記憶機能の変化 ⑪認知機能の変化
② 高齢者と健康	3	1.5	1.5	<講義内容> 1：高齢者の症状・疾患の特徴（P296~299） ①高齢期の健康 ②高齢者の症状・疾患の特徴 2：高齢者の疾病と日常生活上の留意点（P300~305） ①痛み（腹痛） ②痛み（筋肉・骨・関節） ③浮腫（むくみ）④便秘 ⑤下痢 ⑥誤嚥 3：高齢者に多い病気と日常生活上の留意点（P306~327） ①生活習慣病 ②運動系の病気 ③知覚系の病気 ④呼吸器の病気 ⑤腎・泌尿器の病気 ⑥消化器の病気 ⑦循環器の病気 ⑧脳・神経、精神の病気 ⑨介護保険の特定疾病 ⑩感染症
(合計時間数)	6	3	3	

使用する機器・備品等	○中央法規出版「介護職員初任者研修テキスト」第1巻 第4版
------------	-------------------------------

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

## 介護職員初任者研修シラバス

指定番号 62

商号又は名称：株式会社イメージ・ラボ

科目番号・科目名	(7) 認知症の理解			
指導目標	介護において認知症を理解することの必要性に気づき、認知症の利用者を介護する時の判断の基準となる原則を理解する。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等
① 認知症を取り巻く環境	1	0.5	0.5	<講義内容> 1：認知症ケアの理念 (P334~335) ①その人を中心としたケア ②その人らしくありつづけるための支援の実現 2：認知症ケアの視点 (P336~337) ①問題視するのではなく、人として接する ②できないことではなく、できることをみて支援する
② 医学的側面からみた認知症の基礎と健康管理	2	1	1	<講義内容> 1：認知症とは (P338~345) ①脳の機能と認知症 ②認知症とは何か ③認知症ともの忘れの違い ④認知症に類似した状態 2：認知症の診断 (P346~350) ①診断の過程 ②認知症の原因疾患の診断 (鑑別診断) ③認知症の重症度の評価 3：認知症の原因疾患とその病態 (P351~360) ①アルツハイマー型認知症 ②血管性認知症 ③レビー小体型認知症 ④前頭側頭葉変性症 ⑤クロイツフェルト・ヤコブ病 ⑥治療で回復する認知症 ⑦若年性認知症 4：認知症の治療と予防 (P361~365) ①認知症の治療 ②認知症の予防
③ 認知症にともなうこころとからだの変化と日常生活	2	1	1	<講義内容> 1：認知症の人の生活障害、心理・行動の特徴 (P366~373) ①認知症の中核症状 ②認知症の BPSD (行動・心理症状) ③認知症の人の環境の整備 ④認知症の人の環境づくりの実際 2：認知症の人への対応 (P374~379) ①認知症の人にかかわる際の前提 ②実際のかかわり方の基本  <演習実施方法> グループに分かれて、事例を基にディスカッションを行う

④ 家族への支援	1	0.5	0.5	<講義内容> 1：家族への支援（P380~381） ①家族介護者の心理過程と葛藤 2：認知症の人を介護する家族へのレスパイトケア（P382~385） ①レスパイトケアとは ②介護職が行う認知症の家族への支援 ③家族への情報提供と助言の方法
(合計時間数)	6	3	3	

使用する機器・備品等	○中央法規出版「介護職員初任者研修テキスト」第1巻 第4版
------------	-------------------------------

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

## 介護職員初任者研修シラバス

指定番号 62

商号又は名称： 株式会社イメージ・ラボ

科目番号・科目名	(8) 障害の理解			
指導目標	障害の概念と ICF, 障害者福祉の基本的な考え方について理解し, 介護における基本的な考え方について理解する。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等
① 障害の基礎的理解	1	0.5	0.5	<講義内容> 1: 障害の概念と ICF (P390~396) ①「障害」をどうみるのか ②障害の定義 ③国際障害分類と国際生活機能分類 2: 障害者福祉の基本理念 (P397~399) ①ノーマライゼーション ②リハビリテーション ③インクルージョン
② 障害者の医学的側面、生活障害などの基礎知識	1	1	0	<講義内容> 1: 身体障害 (P400~425) ①視覚障害 ②聴覚・言語障害 ③肢体不自由 (運動機能障害) ④内部障害 2: 知的障害 (P426~429) ①知的障害の心理学的概念 ②知的障害の原因 ③介護上の留意点 3: 精神障害 (P430~433) ①精神障害 (疾患) の理解 ②おもな精神症状とその対応 ③精神障害のある人の生活の特徴と介護の留意点 4: 発達障害 (P434~437) ①発達障害の理解 ②発達障害の特性、支援のポイント ③発達障害のある人の生活ニーズ ④発達障害のある人の生活の理解と支援上の留意点 5: 難病 (P438~441) ①難病とは ②難病の種類 ③難病による心理・行動の特徴 ④難病のある人の生活の理解と介護上の留意点
③ 家族の心理、かかわり支援の理解	1	0.5	0.5	<講義内容> 1: 家族の理解と障害の受容支援 (P442~443) ①家族支援の視点 ②障害の受容と家族 2: 介護負担の軽減 (P444~447) ①家族を取り巻く社会環境 ②家族支援となるレスパイトサービス
(合計時間数)	3	2	1	

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

## 介護職員初任者研修シラバス

指定番号 62

商号又は名称： 株式会社イメージ・ラボ

科目番号・科目名	(9) こころとからだのしくみと生活支援技術			
指導目標	<p>介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる。</p> <p>尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。</p> <p>安全な介護サービスの提供方法を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実践できる。</p> <p>尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。</p>			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等
【ア 基本知識の学習】 ① 介護の基本的な考え方	2	1	1	<p>&lt;講義内容&gt;</p> <p>1：理論にもとづく介護 (P2~6)</p> <p>①介護の理論 ②「介護」の見方・考え方の変化</p> <p>2：法的根拠にもとづく介護 (P7~9)</p> <p>①介護の法的根拠</p>
【ア 基本知識の学習】 ② 介護に関するこころのしくみの基礎的理解	5	2	3	<p>&lt;講義内容&gt;</p> <p>1：学習と記憶に関する基礎知識 (P10~13)</p> <p>①学習のしくみ ②記憶のしくみ</p> <p>2：感情と意欲に関する基礎知識 (P14~15)</p> <p>①感情のしくみ ②意欲のしくみ</p> <p>3：自己概念と生きがい (P16~17)</p> <p>①自己概念の視点 ②生きがいと QOL の視点</p> <p>4：老化や障害を受け入れる適応行動とその阻害要因 (P18~21)</p> <p>①要介護状態と高齢者の心理 ②不適応状態を緩和する心理 ③施設への入所・入居による環境の変化と心理</p>
【ア 基本知識の学習】 ③ 介護に関するからだのしくみの基礎的理解	6	3	3	<p>&lt;講義内容&gt;</p> <p>1：生命の維持・恒常のしくみ (P22~27)</p> <p>①体温 ②呼吸 ③脈拍 ④血圧</p> <p>2：人体の各部の名称と動きに関する基礎知識 (P28~29)</p> <p>3：骨・関節・筋に関する基礎知識とボディメカニクスの活用 (P32~39)</p> <p>①骨の構造とはたらき ②関節のはたらき ③筋肉のはたらき ④ボディメカニクスの活用</p> <p>4：中枢神経と体性神経に関する基礎知識 (P40~45)</p> <p>①中枢神経と末梢神経 ②体性神経と自律神経</p> <p>5：自律神経と内部器官に関する基礎知識 (P46~61)</p> <p>①感覚器 ②呼吸器 ③消化器 ④泌尿器 ⑤内分泌 ⑥生殖器 ⑦循環器 ⑧血液</p>
【イ 生活支援技術の講義・演習】 ④ 生活と家事	6	3	3	<p>&lt;講義内容&gt;</p> <p>1：生活と家事の理解 (P66~69)</p> <p>① 自立生活を支える家事 ②家事援助のポイント</p>

				2：家事援助に関する基礎的知識と生活支援（P70~91） ①調理 ②洗濯 ③そうじ・ごみ捨て ④衣服の補修・裁縫 ⑤衣服・寝具の衛生管理 ⑥買い物 ⑦家計管理
【イ 生活支援技術の講義・演習】 ⑤ 快適な居住環境整備と介護	4	2	2	<講義内容> 1：快適な居住環境に関する基礎知識（P92~101） ①居住環境とは ②安心して快適な生活の場づくり 2：高齢者・障害者特有の居住環境整備と福祉用具の活用（P102~115） ①生活空間と介護 ②住宅改修 ③福祉用具の活用
【イ 生活支援技術の講義・演習】 ⑥ 整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	7	7	0	<講義内容> 1：整容に関する基礎知識（P116~117） ①なぜ身じたくを整えるのか ②自立生活を支える身じたくの介護とは 2：整容の支援技術（P118~133） ①洗面 ②整髪 ③ひげの手入れ ④爪の手入れ ⑤化粧 ⑥衣服の着脱  <演習実施方法> ○シーツ交換実施（ベッド上に利用者がいない状態） P275~277 参照  ○上記の講義について、グループに分かれて講師の指導の下、整容の中から衣服着脱等のロールプレイングを適宜実施する。
【イ 生活支援技術の講義・演習】 ⑦ 移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	10	10	0	<講義内容> 1：移動・移乗に関する基礎知識（P134~141） ①なぜ移動をするのか ②もっている力の活用と自立支援 ③ボディメカニクスの活用 ④重心と姿勢の安定 2：移動・移乗に関する福祉用具とその活用方法（P142~147） ①手すり、歩行器、杖 ②車いす ③移動用リフト ④簡易スロープ・段差解消機 3：利用者・介助者にとって負担の少ない移動・移乗の支援（P148~173） ①体位変換 ②安楽な体位の保持と褥瘡の予防 ③歩行の介助 ④ベッド・車いす間の移動の介助 ⑤車いすの介助 4：移動・移乗を阻害する要因の理解とその支援方法（P174~177） ①精神機能の低下が移動に及ぼす影響 ②身体機能の低下が移動に及ぼす影響 5：移動と社会参加の留意点と支援（P178~181） ①外出の支援 ②円滑な外出のための留意点 ③外出先における留意点 ④社会参加の支援  <演習実施方法> 上記の講義について、グループに分かれて講師の指導の下、移動・移乗等のロールプレイングを適宜実施する。 ※公園にて、車椅子・杖の実技を行う。
【イ 生活支援技術の講義・演習】 ⑧ 食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	4	4	0	<講義内容> 1：食事に関する基礎知識（P182~187） ①なぜ食事をするのか ②食事に関連したところのしくみ ③食事に関連したからだのしくみ 2：食事環境の整備と食事に関する用具の活用法（P188~207） ①「おいしく食べる」を支援するために ②食事の介助 ③食事関連用具 ④誤嚥・窒息の防止

				<p>⑤低栄養の改善と予防 ⑥脱水の予防 ⑦口腔ケア</p> <p>3：楽しい食事を阻害する要因の理解と支援方法（P208~212）</p> <p>①精神機能の低下が食事に及ぼす影響</p> <p>②身体機能の低下が食事に及ぼす影響</p> <p>4：食事と社会参加の留意点と支援（P213）</p> <p>&lt;演習実施方法&gt;</p> <p>上記の講義について、グループに分かれて講師の指導の下、食事介助等のロールプレイングを適宜実施する。</p>
<p>【イ 生活支援技術の講義・演習】</p> <p>⑨ 入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	8	8	0	<p>&lt;講義内容&gt;</p> <p>1：入浴・清潔保持に関連する基礎知識（P214~219）</p> <p>①なぜ入浴・清潔保持を行うのか</p> <p>②入浴・清潔保持に関連したところのしくみ</p> <p>③入浴・清潔保持に関連したからだのしくみ</p> <p>2：入浴・清潔保持に関連する用具の活用方法（P220~239）</p> <p>①「気持ちのよい入浴」を支援するために</p> <p>②入浴の介助 ③浴室の空間構成</p> <p>④入浴設備と関連用具 ⑤手浴・足浴の介助</p> <p>⑥洗髪の介助 ⑦清拭</p> <p>3：楽しい入浴を阻害する要因の理解と支援方法（P240~243）</p> <p>①精神機能の低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響</p> <p>②身体機能の低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響</p> <p>&lt;演習実施方法&gt;</p> <p>上記の講義について、グループに分かれて講師の指導の下、洗髪・手浴・足浴介助等のロールプレイングを適宜実施する。</p>
<p>【イ 生活支援技術の講義・演習】</p> <p>⑩ 排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	7	7	0	<p>&lt;講義内容&gt;</p> <p>1：排泄に関する基礎知識（P244~249）</p> <p>①なぜ排泄をするのか</p> <p>②排泄に関連したところのしくみ</p> <p>③排泄に関連したからだのしくみ</p> <p>2：排泄環境の整備と関連する用具の活用方法（P250~265）</p> <p>①「気持ちのよい排泄」を支援するために</p> <p>②排泄の介助 ③トイレの環境 ④排泄関連用具</p> <p>⑤便秘、下痢への対応</p> <p>3：爽快な排泄を阻害する要因の理解と支援方法（P266~269）</p> <p>①精神機能、判断力の低下が排泄に及ぼす影響</p> <p>②身体機能の低下が排泄に及ぼす影響</p> <p>&lt;演習実施方法&gt;</p> <p>上記の講義について、グループに分かれて講師の指導の下、排泄介助等のロールプレイングを適宜実施する。</p>
<p>【イ 生活支援技術の講義・演習】</p> <p>⑪ 睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	3	3	0	<p>&lt;講義内容&gt;</p> <p>1：睡眠に関する基礎知識（P270~273）</p> <p>①なぜ睡眠が必要なのか ②睡眠を引き起こすしくみ</p> <p>③睡眠の種類</p> <p>2：睡眠環境の整備と関連する用具の活用方法（P274~281）</p> <p>①「安眠」を支援するために ②寝室の空間構成</p> <p>③睡眠と薬</p> <p>3：快い睡眠を阻害する要因の理解と支援方法（P282~287）</p> <p>①睡眠不足が及ぼす影響</p> <p>②加齢による心身の変化が睡眠に及ぼす影響</p> <p>③病気や障害が睡眠に及ぼす影響</p> <p>&lt;演習実施方法&gt;</p>

				上記の講義について、グループに分かれて講師の指導の下、ベッドメイキング等のロールプレイングを適宜実施する。
【イ 生活支援技術の講義・演習】 ⑫ 死にゆく人に関連したこころとからだのしくみと終末期介護	3	3	0	<p>&lt;講義内容&gt;</p> <p>1：終末期に関する基礎知識（P288~291） ① 終末期の介護 ②終末期の変化の特徴</p> <p>2：生から死への過程（P292~294） ① 看取りの現状 ②尊厳死</p> <p>3：「死」に向き合うこころの理解（P295~297） ①「死」に対するこころの変化 ②「死」を受容する段階 ③家族の「死」を受容する段階</p> <p>4：苦痛の少ない死への支援（P298~300）</p> <p>&lt;演習実施方法&gt;</p> <p>上記の講義について、視聴教材等を使用しグループに分かれて講師の指導の下、終末期の介護に関する考え方等のディスカッションを適宜実施する。</p>
【ウ 生活支援技術演習】 ⑬ 介護過程の基礎的理解	2	2	0	<p>&lt;講義内容&gt;</p> <p>1：介護過程の目的・意義・展開（P316~320） ① 根拠にもとづいた介護の実践 ② 介護過程の展開イメージ</p> <p>2：介護過程とチームアプローチ（P321~323） ①チームアプローチにおける介護職の役割</p>
【ウ 生活支援技術演習】 ⑭ 総合生活支援技術演習	8	8	0	<p>&lt;講義内容&gt;</p> <p>1：演習を行うにあたって（P324~325） ①生活全般にわたる側面的な支援 ②生活を支援する流れ</p> <p>2：「食べたくない」と訴える施設入居者の援助（P326~332） ①鈴木さんの介護に必要な情報 ②介護職が確認したい情報 ③新たに収集した情報 ④入手した情報の関連づけ ⑤鈴木さんにとって解決したいこと（鈴木さんの思い） ⑥必要な介護内容の計画立案 ⑦計画にもとづいた介護の実施 ⑧実施した介護内容の評価</p> <p>3：できるだけ外に出かけたいと思っている利用者の援助（P333~339） ①田中さんの介護に必要な情報 ②介護職が確認したい情報 ③新たに収集した情報 ④入手した情報の関連づけ ⑤田中さんにとって解決したいこと（田中さんの思い） ⑥必要な介護内容の計画立案 ⑦計画にもとづいた介護の実施 ⑧実施した介護内容の評価</p> <p>4：トイレでの排泄にこだわりをもつ利用者の援助（P340~347） ①佐藤さんの介護に必要な情報 ②介護職が確認したい情報 ③新たに収集した情報 ④入手した情報の関連づけ ⑤佐藤さんにとって解決したいこと（佐藤さんの思い） ⑥必要な介護内容の計画立案 ⑦計画にもとづいた介護の実施 ⑧実施した介護内容の評価</p> <p>&lt;演習実施方法&gt;</p> <p>上記の講義について、グループに分かれて講師の指導の下、ディスカッション技術演習を適宜実施する。</p>
(合計時間数)	75	63	12	

使用する機器・備品等	○中央法規出版「介護職員初任者研修テキスト」第2巻 第3版 介護用ベッド、ポータブルトイレ、車椅子、浴槽、介護用杖等 介護用品一式
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

## 介護職員初任者研修シラバス

指定番号 62

商号又は名称： 株式会社イメージ・ラボ

科目番号・科目名	(10) 振り返り			
指導目標	研修全体を振り返り、本研修を通じて学んだことについて再認識を行うとともに、就業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成、学習課題の認識をはかる			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① ふり返り	2	2	0	<講義内容> 1: 研修を通じて学んだこと (P350~353) ①研修を修了して感じたこと、考えたこと ②学んだことを再確認する
② 就業への備えと研修修了後における実例	2	2	0	<講義内容> 2: 継続的な研修が大切 (P354) 3: 介護職のキャリアアップと介護職がめざす介護 (P354~355)
(合計時間数)	4	4	0	

使用する機器・備品等	○中央法規出版「介護職員初任者研修テキスト」第2巻 第3版
------------	-------------------------------

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

記載例／ 実習を実施する場合又は視聴覚教材を活用する場合

(別添 2-2)

平成 25 年 4 月 1 日現在

シラバス

指定番号 19

商号又は名称：株式会社大阪商事

科目番号・科目名	(1) 職務の理解		
指導目標	① ○○○○ ② ○○○○		
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数
① 多様なサービスと理解	2.5	2.5	0
② 介護職の仕事内容や働く現場の理解	3.5	3.5	0
(合計時間数)	6	6	0

「介護職員初任者研修における目標、評価の指針」(別紙2)やテキスト等を参考に指導計画を作成すること。  
別紙に記載しても可。

実習に代わり、介護の現場や仕事ぶり等を紹介した DVD 等の視聴覚教材を活用して理解を深めてもらう方法も可能。ただし、視聴覚教材のみを視聴するだけの授業は認められないので注意すること。

実習を実施する場合は、実習実施内容を記載すること。  
実習を組み入れることができる科目は、「(1)職務の理解」及び「(10)振り返り」のみであるので注意すること。  
また、当該科目は、項目のすべてを実習に充てることも構わない。

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。また、通信時間数を 0 に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

記載例／ 通信学習の場合

(別添 2 - 2)

平成 25 年 4 月 1 日現在

シラバス

指定番号 19

商号又は名称：株式会社大阪商事

科目番号・科目名	(2) 介護における尊厳の保持・自立支援職務の理解			
指導目標	① ○○○○ ② ○○○○ ③ ○○○○			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 人権と尊厳を支える介護	3	1	2	<通信学習課題の内容> ○○○○  <講義内容> ○○○○ ○○○○  <演習実施方法> ○○○○
② 自立に向けた介護	4	1	3	<通信学習課題の内容> ○○○○  <講義内容> ○○○○ ○○○○  <演習実施方法> ○○○○
③ 人権啓発に係る基礎知識	2	2		<講義内容> ○○○○ ○○○○
(合計時間数)	9	4	5	

「別紙 3 通信形式で実施できる科目ごとの上限時間と各科目の総時間」を基に、通信学習時間の上限を超えないよう注意すること。

「人権啓発に係る基礎知識」は、通信学習で実施できないので注意すること。

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。